

## いずみさの昔と今 第354回

## 「長滝庄関係の史料の紹介」

今回は「長滝庄」展で質問の多かった事柄に答えました。今回は展示では触れられなかった史料を紹介します。

まずは鎌倉時代の久米田寺関係の史料です。神奈川県立金沢文庫で令和6年秋に開催された「久米田寺」展で紹介された2月か2日付（年不詳）の久米田寺僧高恵の書状（大阪青山歴史文学博物館所蔵）です。ここには、高恵が長滝庄に「入郷」したことが記されています。正和5（1316）年11月に、氏長者二条道平によって長滝庄は久米田寺に寄進されますが、その関係で現地にやってきたものと考えられます。

この他にも、関東の寺から久米田寺に留学してきた僧湛睿が文保元（1317）年2月に長滝庄で説法を行った際の台本（金沢文庫所蔵）も残っています。ここから、久米田寺の関係者が当庄にやってきたのみならず、実際に布教活動が行われていたことが分かるのです。これらの史料から、これまで分からないことの多かった長滝庄での久米田寺の活動の一端を知ることができます。

次に南北朝時代の高野山関係の史料を紹介します。延元3（1338）年9月17日付の御

影堂文書撰出日記（高野山所蔵）という史料に、「長滝分」として「本主寄進状」「代々手継」「長者宣」の3つの史料があげられています。このうち「本主寄進状」は、これより前の元徳2（1330）年10月13日に高野山が長滝庄の利権を獲得した際のものとして既に知られています。「代々手継」は、それまでの権利関係の文書群を指します。残る「長者宣」は藤原氏の氏長者が出した文書で、高野山の利権を氏長者も認めていたことが分かります。

さて、「長滝庄」展では、暦応3（1340）年7月18日に日根野氏が性海という僧侶の「濫妨」を訴えたことを取り上げました。実は同時代の高野山関係の史料に、「性海」という高野山僧の名が複数確認できるのです。先に触れたように、当時の高野山が当庄の利権を持っていたことから、この「性海」と日根野氏が濫妨を行った性海とが同一人物である可能性が指摘できます。

では、この「濫妨」の背景にはどのような事情があるのでしょうか。ここで文書撰出日記で使用されている年号に注目すると、「延元」という南朝方の年号（北朝方では当時は「建

武」を使用）が記載されています。それに対して、日根野氏は当時北朝方として活動していたことが多くの史料から確認できます。そして、建武4（1337）年に日根野氏が氏長者から長滝庄の利権を認めてもらう際には、「方々狼藉」を鎮めて年貢・公事をしつかりと納めることを約束する旨が記載されています。これらを踏まえると、ここで言及されている「方々狼藉」のうちには、当時南朝方として敵対していた御影堂によるものがあつたと考えられます。

その後、情勢の変化に応じて御影堂も北朝方につきます。そのため、同陣営に同じ利権を持つものが並び立つ状態となったものと推測できます。この対立が「濫妨」という形で噴出したのが、暦応3年の訴訟につながったと考えられます。

以上、長滝庄関係史料を紹介しました。今後これらの史料の調査がもっと進めば、様々なことが分かってくることでしょう。

レイクアルスタープラザ・

カワサキ歴史館いずみさの

☎469-7140 Fax469-7141

休館日 月曜日、毎月最終木曜日（いずれも祝日の場合は開館し、その翌日が休館）

開館時間

午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

入館料 無料

## 泉佐野 レトロ タイムスリップ

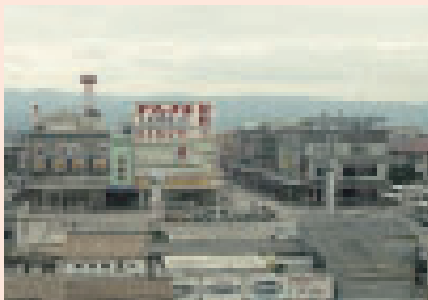
泉佐野市の昭和頃の懐かしい写真を紹介します。

## ⑫ 駅上商店街



▲昭和42年ごろの泉佐野駅前商店街の様子。旧第二小学校校地と貨物駅敷地を駅前防災街区として、昭和41年より泉佐野駅上商店街の造成を開始した。

▼昭和46年の泉佐野駅上商店街の様子。工事は昭和42～44年にかけて、三期に分けて行われた。



▲現在の駅上商店街の様子。最近では、外国人観光客向けの店もできている。

泉佐野市の懐かしい写真は「泉佐野市デジタルアーカイブ (<https://adeac.jp/izumisano-city/top/>)」でも公開中！